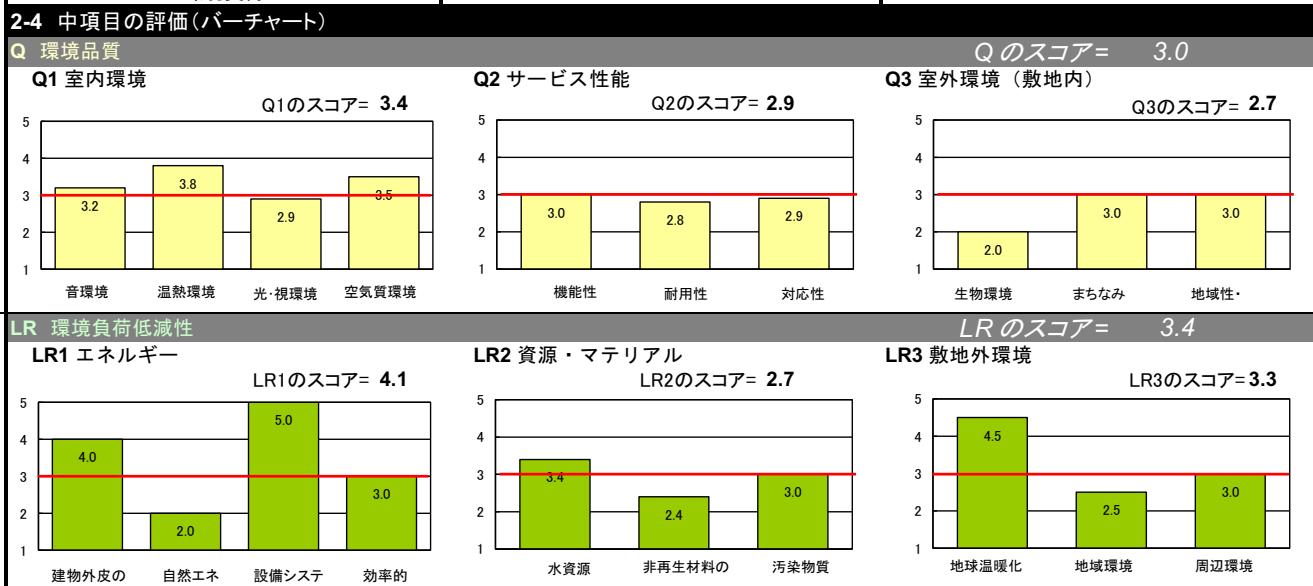
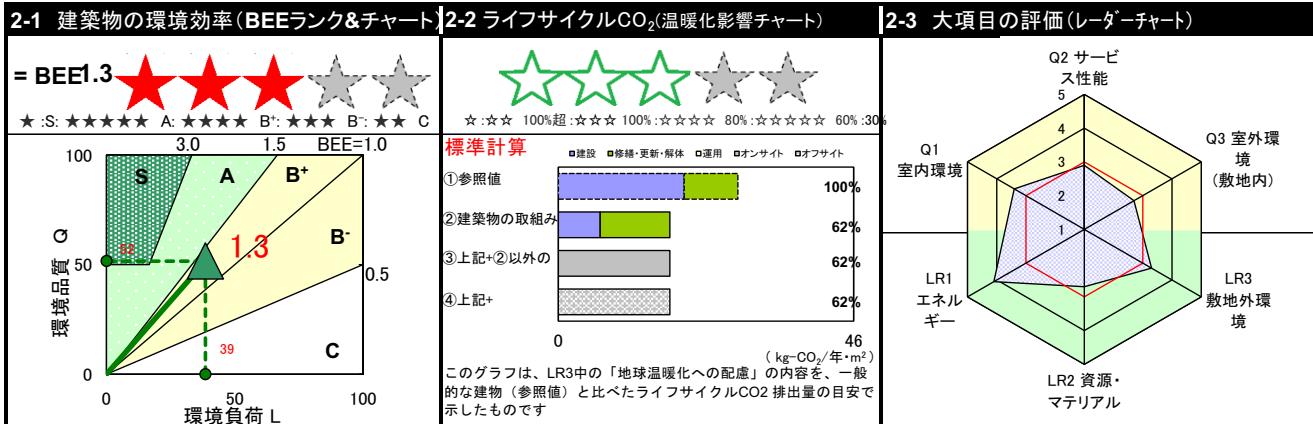


CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築物評価2016年版、名古屋市建築物環境配慮技術運用マニュアル2016

■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)昭和区楽園町計画新築工事	階数	地上4F地下1階
建設地	愛知県名古屋市昭和区楽園町77番1	構造	RC造
用途地域	第3種住居専用地域、法22号区域、宅地造成等規制区域、文教地区、綠化地区、外壁後退1.0m、10m高度地区、居住誘導区域内	平均居住人員	96人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2020年12月16日
敷地面積	2,023 m ²	作成者	
建築面積	801 m ²	確認日	2020年12月16日
延床面積	2,391 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
傾斜地に沿った配棟とし、一部を地階として高さを抑えた計画とした。道路との境界は植栽帯を作り、高密度な植栽配置により周辺環境との調和を目指す。特に南側の前面道路と本計画建物とのあいだに道路の高低差に合わせた段々の高密度な植栽帯を計画し、歩道レベルにも植栽帯を作ることで歩行者が建物による圧迫感の感じにくいように考慮した。		
Q1 室内環境		Q3 室外環境(敷地内)
開口部にはLow-E複層ガラスを採用することで高い断熱性能を確保し、遮音性能の高いサッシとすることで快適な住環境としている。また、シックハウス対策として全面的にF☆☆☆☆を採用している。		20%以上の緑化を行った。また、中木、高木を植栽した。定期的に管理ができるよう、管理用通路を設置。管理会社が水やり、樹木の剪定、掃除を行う。
LR1 エネルギー		LR3 敷地外環境
建物外皮性能は日本住宅性能評価表示基準「5-1断熱性能等級」における等級4を満たし、一次エネルギー消費性能についても建物全体のBEIが0.77としている。		ライフサイクルCO ₂ 排出率が62.0%以上としている。駐車場及び駐輪場については、住戸数以上の台数を確保する計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート
(仮称)昭和区楽園町計画新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
■評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目	評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策			4.0
LR1 エネルギー	4.1	0.4	
LR3.1 地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2 溫熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生			2.3
Q3.1 生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1 地域性への配慮、快適性の向上 まちなみ・景観への配慮	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会			2.7
LR2.1 水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2 非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3 地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.0



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。